全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万4000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年7月19日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

研修にも役立てたい全国の学童保育の様子が毎月掲載しています！

日々の学童保育にも影響する国の施策をお届けしています！

若い人たちが安心して働ける職場にしたい！　の思いを胸に！

静岡県の取り組み

2001年に開催した第36回全国学童保育研究集会in静岡のときに、県連協会長をしていた私は、約20年ぶりに学童保育指導員に復帰しました。学童保育をめぐる状況は、以前とはかなり違っていました。

職場内での学習会・打ち合わせに、『日本の学童ほいく』を使っていて、2023年3月号の特集「たしかめよう 学童保育指導員の仕事と労働条件」を読みました。かつてから指導員の多くは低賃金で、「同年代の人々と比べて格段の差がある」と聞いていました。「働く保護者の子どもを預かって、保護者の労働を支えているのに、なんという差だ」という思いすら……。いまでは、処遇改善の予算がついて、アルバイトなどをしなくても暮らしていけるとの特集でした。

いま、私の周りには、若い指導員が何人もいます。しかし、みんな仕事を掛け持ちしています。ボランティアに来てくれた高校生が、子どもとのかかわり方が上手で、指導員に向いているなと思っても、この給料では、「指導員になったら？」とは、とても言えません！そんなときにこの特集を読んで、「え～っ、国がこんな施策を出していたんだ」と、びっくり!!「年収350万円の保障があるなら、若い方たちにとっても十分働ける職場となる」と思いました。常勤職員にもなれます。いまだって、1日8時間は働いているのですから。

県連協では、「若い人たちが安心して仕事ができる職場にしたい」との思いを抱いていますが、地域格差があり、はたして、何人の指導員の処遇が改善されているのか調べるのは、これからの課題です。まず、指導員自身がこの制度をわかっているかもあります。何と言っても、「指導員が次々辞めていく」「募集しても集まらない」など、処遇改善が急がれます。一日も早い段階で、指導員の処遇改善を実現できるよう、できるだけがんばろうかなと、若い指導員と仕事して思っています。なんと言っても大事なかわいい子どもたちのためですもの！

2023年6月25日、第41回特定非営利活動法人静岡県学童保育連絡協議会の総会では、

＊『日本の学童ほいく』の普及および拡大に取り組むこととしました。
＊研修部が行う研修でもほいく誌を紹介しています。
＊指導員の処遇改善のための学習会を企画します。

日本の学童ほいく7月号

特集 働きながらの子育て
――学童保育と共に

働くことと子育てに関わっては、それぞれの方が心にとめていること、大切にしていること、ときに悩みや葛藤などもあるでしょう。
今回の特集では、「保護者をとりまく労働実態」について学ぶとともに、「働きながらの子育て」についての思いを交流します。
そして、子どもと保護者を支える指導員の役割をたしかめあい、「働きながらの子育て」について考えあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万4000部

2023年7月19日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

長崎県大村市●保護者から

私は、仕事と子育ての両立は恥ずかしながらできていません。学童保育にお迎えに行き、バタバタ家事をして、あっという間に終わる一日をほぼ毎日過ごしています。子どもとゆっくりと話をできる日はたまにしかありません。子どもが寝てから、「怒りすぎたな」「もっと冷静に話してあげればよかったな」などと反省することも少なくはありません。そうした日々のなか、小学校入学時から毎日欠かさず行っていること。それは毎朝、子どもの登校時にはお見送りをすることです。玄関まで行き、「いってらっしゃい！　車や自転車には気をつけて。今日もがんばってね」「いってきます！　がんばります」と元気な声が返ってきます。どんなに忙しい朝でも、手をとめて必ず行っていることです。子どもの元気な言葉に私も「今日も一日がんばろう」と思うことができ、毎日の活力になっています。今年は三年生。そのうちいやがられるようになるかもしれませんが、これからもつづけていこうと思います。

『日本の学童ほいく』2023年7月号「仕事・子育て――私の思い」より

岩手県盛岡市●保護者から

わが家は夫と私、小学三年生の息子の三人家族。私は曜日を問わないシフト制での勤務です。私の現在の職場で働きはじめた頃、何度も息子から「ねえ、なんで、かあか（私のこと）は、ぼくが休みの日、いつも仕事なの？」と尋ねられ、「ごめんね、みんな待っているから、お仕事行ってくるね」と言って家を出つつ、いつも息子に申し訳なく思っていました。

あれから数年が経ち、息子は「ぼく、大きくなったら、かあかと一緒のお仕事したい」と言うようになりました。きっかけは、息子を何度か私の職場に連れていったことです。職場は、精神・発達障がい者の方々が就労している場所。皆、毎日楽しくお仕事しています。息子は、「かあかのお仕事のみんな、ニコニコしてて、やさしいし、かあかも楽しそうだね」と言ってくれます。

息子が休みの日に一緒にいることができずに、さみしい思いをさせてしまったこともありますが。いまではこんなふうに思ってくれているのがうれしいですし、この言葉が、私が仕事をするうえでのモチベーションにもなっています。この先、さまざまな職業に興味を持ち、やりたいことを見つけてほしいと思っていますが、もし私と同じような仕事をしてくれるなら、それはとてもステキなことだなと感じています。

『日本の学童ほいく』2023年7月号「仕事・子育て――私の思い」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は山口県防府市から指導員の原田美佐子さん

指導員の仕事に就いて、何年か経ったころ、先輩にすすめられ、『日本の学童ほいく』と出会いました。「わざわざ自宅まで送ってくれるなんてすごい」と思いつつも、なかなかしっかり活用できていませんでした。「こどもランド」のクイズをためておき、長期休業中に子どもに出題したり、子どもたちにわかりやすく答えてくださっている「どうして どうして？」のコーナーを活用しなくてはと思い、学童保育で紹介するなどしていました。

コロナ禍で、休校になったときは、何か楽しいことをして気分だけでも上げたいと、「ある・なしクイズ」や「まちがいさがし」などを活用して「大クイズ大会」を行って盛り上がりました。最近では、失敗やうまくいかなかったことで悩むとき、ほいく誌を開くと、同じ仕事でがんばっておられるたくさんの仲間がいることにとても励まされます。

保護者に子どもの様子を日常的に伝えることは指導員の大切な仕事です。とはいえ、すぐには信頼関係を築けません。伝えられた様子から「我が子に向けるあたたかなまなざし」を実感できたときに、保護者は指導員に信頼を寄せるのだろうと思います。そういう記事を読むと、現場で日々奮闘している指導員の姿が目に浮かんできます。私だけではない、みんな悩んで立ち止まり、お互い励ましあい、また成長していくことが、ほいく誌を通して実感できました。一人ではなく、全国にたくさんの仲間がいることを実感できるほいく誌。これからもしっかり活用していきたいと思います。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 本郷宮田ビル4階 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou